

運行補助員にインタビュー！

スカイダックの運行を支える運行補助員 5 名が答えてくれました！



～スカイダック台場編～

運行補助員:新井重行さん(10カ月)写真左
倉持常夫さん(1年)写真右

—運行補助員としてのやりがいは何ですか？

(新井さん) スカイダックが到着してスロープまでの誘導、あとはスロープに上がって公園を出発するまでの誘導をクルーの方とトランシーバーでやりとりをしながら、上手くいった時にやりがいを感じます。

(倉持さん) 誘導や洗車といった業務でのやりがいもありますが、お客様がスカイダックから手を振ってくれた時や、お客様の笑顔を見た時に「やっていてよかったなあ」と感じます。

—大変なことは何ですか

(新井さん) やはり誘導はかなり大変で、もの凄く神経を使う仕事なので、特に人・子どもを怪我させないようにするのが大変な仕事だと思います。



(倉持さん) バスを後ろから追いかけていくのが大変なんです。もう若くはないんでね(笑)あとは、暑さ・寒さの影響を受けやすい業務なので体調管理に気を付けています。

—職場の雰囲気について

(新井さん) 良い雰囲気ですよ。コミュニケーションをはかりながら日々楽しく仕事をさせてもらっています。誘導員同士だけではなく、ダックのクルーやアテンダントの方とも声を掛け合いながら楽しく仕事をさせてもらっています。





～スカイダック横浜編～

運行補助員：滝野市郎さん（4年）

—運行補助員の1日の業務の流れを教えてください。

まず朝の準備ですね。スロープ周辺を掃除して高圧洗浄機やホースの準備。それからバスが入ってきて試走をしますから、その補助をします。次は実際に、バスがお客様を乗せに行つて陸ルートを走り、スプラッシュするスロープまでの誘導・バスが海から上陸する時の補助・バスの洗車・清掃をします。

平日は一日4便、土日は一日7便から8便ということですが、そういった流れになっています。



—大変なことはなんですか？

幼稚園児など小さい子も多いですから、そういった人たちの安全の確保ですね。また、ここは観光地のど真ん中ということでね、結構お客様から市役所やホテルなどの場所を聞かれます。最初は何も分からなかったんですが、聞かれるうちに覚えていきました。

—心掛けていることはありますか

バスの運行の補助ですから、歩行者の安全・バスの安全。それからお客様に喜んでいただくことを心掛けています。

—職場の雰囲気について

それなりの年齢と、色々な仕事を経験してきた人が多いので、みんなお互いに助け合っていて雰囲氣的に非常に良いです。お互いを敬うということですね。





～スカイダック東京編～

運行補助員：新井勇作さん（5年）写真左
杉本喬夫さん（7年）写真右

—運行補助員としてのやりがいは何ですか？

（杉本さん）人が多い時にうまく仕切れた時。川の中を行き交うカヌーについても広場に集まる子ども達についても、うまく仕切れた時はやりがいを感じます。やはり交通安全ですね。ここで事故を起こしてはいけませんもんね。



—日々の業務で心掛けていることは何ですか？

（杉本さん）子どもって突然前を走るからね。業務をしながら「あの子は少し危ないな」と気にかけておくのが結構大事なんですよ。

あと、ここは川の水が抜かれて水位がさがると、ダックは川に入れなくなってしまいます。その時は（ルートの変更などがあるので）早めにチケットカウンターやドライバーに伝える必要があります。水位が下がっているかどうかは、自分たちの目で見ないとダメなんです。大雨警報が出ている時など、水が多くなっている時には注意しますね。

—職場の雰囲気について

（新井さん）年配が多いから、みんなで和気あいあいとやっています。人間関係は非常にうまくやっていますよ。

他の人がミスしたことも次は自分がやる可能性がありますからね。だから全部フォローし合っています。

